

第2回 嘉麻市学校施設整備審議会 会議録

1. 審議会等の名称 平成29年度 第2回嘉麻市学校施設整備審議会
2. 開催日時 平成30年2月8日(木) 19:00~20:30
3. 開催場所 嘉麻市役所 嘉穂庁舎2階 第1会議室
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 非公開の理由(会議を非公開とした場合のみ)
6. 出席者

(1) 委員

会 長 安永卓生

副会長 永富靖人

委 員 野上真吾、松隈志津、三谷章子、村上曙生、飯田千鶴美、

坂田勲、中村忠紀、福永貴義、古賀修治

*欠席委員1名 赤崎和徳

(2) 執行機関

学校教育課長 柴田きよみ、学校教育課参事 大森雅明、学校教育課長補佐 赤坂晋

教育企画係長 山本匡貴、教育企画係 山口陽子

7. 傍聴人数(会議を公開した場合のみ) 0人

8. 議題及び審議の内容

【議題】

- (1) 建設費用、維持管理費用について
- (2) 児童生徒数の推計について
- (3) 施設整備の方法について

【審議の内容】

- (1) 建設費用、維持管理費用について

○建設費用の試算について、資料7に沿って説明を行った。(事務局)

○維持管理費の試算について、資料8に沿って説明を行った。(事務局)

○今後20年間に係る費用総額の比較について、資料9に沿って説明を行った。(事務局)

○施設整備方法によるメリット・デメリットの比較について、資料10に沿って説明を行った。(事務局)

説明を受け、審議を行い、次のような質問や意見が出た。(委員)

○児童生徒数の推計でほとんど減っていないところがあるが、何か考慮したのか。

→推計にあたり、嘉麻市の人口ビジョン(平成28年3月作成)を参考にしており、全人口の中で小中学生の割合が7~8%を占めることから、今回の児童生徒数の推計もこの数値を利用している。また、熊ヶ畑小学校は規模が小さく推計値を出すことが困難であるため現状の下限で横ばい推計としている。(事務局)

○児童生徒数の変動、校舎の経過年数や耐用年数が移り変わるなかで、いつの時点での試

算としているのか。どの程度の規模の学校として試算しているのか。

→現在、嘉麻市学校施設整備基本計画（平成21年策定）を基に、大規模改修後に改築を行う予定となっているが、このまま大規模改修をしながら耐用年数後に建て替えるか、有利な財源がある間に1校でも大規模改修をせずに改築していくのか、有利な財源がある間に小中一体型の建物を建てて残していくか審議していただくために審議会を開催している。本来ならば耐用年数の時期のところで試算が望ましいが、今回は現時点での費用対効果を試算している。（事務局）

○有利な財源を使用した場合と、一般的な財源を使用した場合の比較はあるのか。

→一般財源負担比率の比較を次回審議会で提出する。（事務局）

○補助金はあるのか。

→国庫補助メニューを次回審議会で提出する。（事務局）

○経済的なことだけでなく、地域の事情を把握することが必要ではないか。

→個別の学校に対しては必要だが、この審議会では全体の方針を審議いただきたい。（事務局）

○嘉麻市は過疎を解消しなければ、人口も減り、お金も無くなり、教育へ配慮する余裕がなくなるのではないか。

→嘉麻市としては、定住促進への政策を進めているところである。教育長の教育方針としては、嘉麻市が存続していくには、子どもたち、教育が大事であるとしている。学校教育課としても、子どもたちの安心安全な教育環境を作っていくところである。こういった形で施設を改善していくことが望ましいのかというところで今回審議いただきたい。（事務局）

○例えば小中一体型として、9年間同じ校舎に同じメンバーで通い続けることは、子どもたちにとって刺激が少ないのではないか。保育園の0歳児からずっと一緒の子どもたちもいる。

○若い世代にとっての教育面での嘉麻市の魅力とはなにか。

○子どもは勉強がわかることが嬉しく、それによりクラスが楽しい、学校が楽しいとなっていく。費用の削減だけでなく、どこに手をかけるのかを大事にしたい。

→この会が施設整備審議会ということで、ハード面がメインとなった資料を提示している。嘉麻市独自の大きな施策としては、普通は40人学級のところ、30人以下学級を6年前から取り入れている。子ども一人ひとり個に応じた教育を目指しているためである。特別支援教育に関しても、補助教員という形で取り入れている。（事務局）

○前回の審議会で一番強調していたことは、安心安全面だった。前回資料の劣化度評価平均点やハザードマップは、自然災害がいつ来るのかわからないことから大事なところ。碓井中学校は特別警戒区域に入っている。安全面からみて、人口が増えるまで悠長に待てない状況がある。お金も限りがあり、特例債の期限も限りがある中で、ソフト面ハード面すべてがうまくいくことはまず無い。どこに使うのか整理すべき。

○全体の枠組みとして財政との関わりもあるので一体型が妥当ではないかと思う。

○碓井中学校は特別警戒区域に指定されている。碓井地区の避難場所となっているが、裏の山が崩れたときには逆に校舎から避難する必要がある。

○一体型になるメリットとして、小学校に英語授業が入ってきた場合、中学校の専門的な

スキルのある英語授業を受けられる。

- いいか悪いかはわからないが、あまり一体型校舎へ寄りすぎてはいけないのでは。いいところは残しつつ、見極めが大切だと思う。
- 一貫校ではなく、一体型となっているところが良いところ。学校にとって、小学校と中学校は教員の文化が違うためいきなり一緒になることは難しい。同じ場所に一体型としてできた後、まずは教員の交流から始めていきたい。
- その他
 - ・街づくりの話
 - ・人口減少、少子高齢化の話

9. 配布資料

(1) レジюме

(2) 第2回嘉麻市学校施設整備審議会 資料

【資料7】建設費用の試算

【資料8】維持管理費の試算

【資料9】今後20年間に係る費用総額の比較

【資料10】施設整備方法によるメリット・デメリットの比較

【資料11】平成50年度(2038年)までの児童生徒数の推計